

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-65

学校名・団体名	津市立西が丘小学校
HPアドレス	http://ednet.res-edu.ed.jp/s-nishigaoka/index.php?page_id=0
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	デジタル教科書を活用して 国語授業をアクティブに
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>デジタル教科書（ICT 機器）を活用することで、子どもたち一人ひとりの能力や特性に応じた学び（個別学習）が深まり、その学びをもとにして、子どもたち同士が楽しく話し合い学び合う協働的な学び（協働学習）がより積極的になり、「生きて働く言語力」と「論理的思考力」を身につけさせることができる、と考えた。</p>	

(1) 活動経過

(4月) 研修主題、仮説、研修内容、研究構想図の検討
三重大学との連携活動案検討

(6月) 全職員による校内研修会

「平成28年度版6年間で身につける説明文の5つの読みの技術」、「6年間で身につける説明文の論理的な読み方」を作成

(7月) 「教材研究ワークシートを活用した校内教材検討会」うなぎのなぞを追って(光村4年下)
想像力のスイッチを入れよう(光村5年下)

(9月) デジタル教科書を活用した教材研究「4年生」うなぎのなぞを追って(光村4年下)
指導・助言 守田 庸一先生(三重大学准教授、西が丘小学校スーパーバイザー)

(11月) 筑波大学附属小学校教諭による師範授業

講話：青山 由紀先生(筑波大学附属小学校)

指導・助言：守田 庸一先生(三重大学准教授、西が丘小学校スーパーバイザー)

デジタル教科書を活用した、全校公開授業「4年生」、

思考ツールを活用したワークショップ型事後検討会

指導・助言 守田 庸一先生(三重大学准教授、西が丘小学校スーパーバイザー)

(1月) デジタル教科書を活用した教材研究「5年生」想像力のスイッチを入れよう(光村5年下)

指導・助言 守田 庸一先生(三重大学准教授、西が丘小学校スーパーバイザー)

デジタル教科書を活用した、全校公開授業「5年生」、

思考ツールを活用したワークショップ型事後検討会

指導・助言 守田 庸一先生(三重大学准教授、西が丘小学校スーパーバイザー)

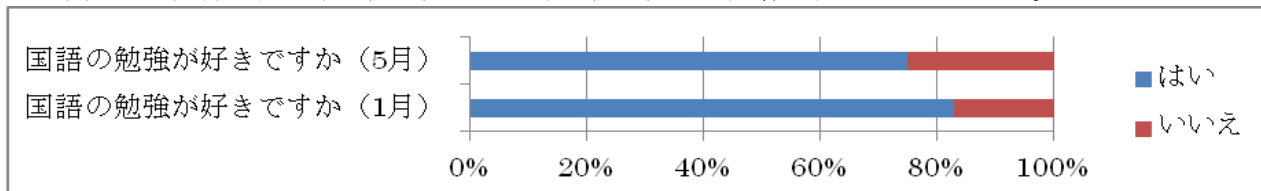
(2月) 研究の反省とまとめ、研究紀要作成

(2) 成果と課題

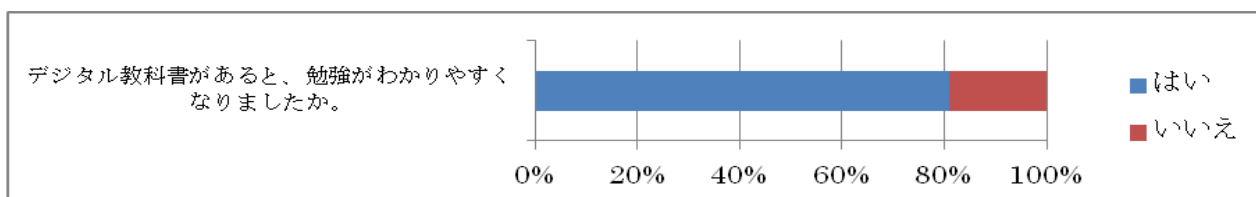
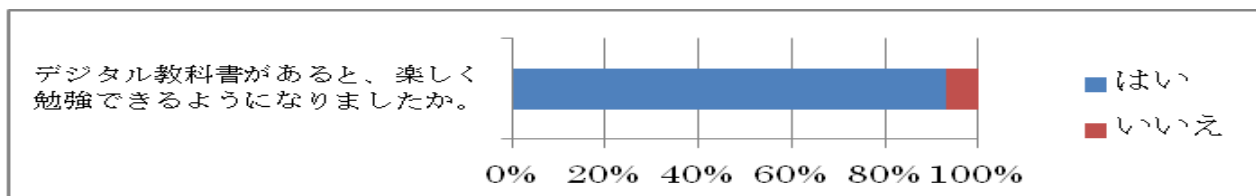
○成果

・子どもたちの学習への意欲・関心が高まった。

本校で毎年実施している国語授業についてのアンケートで、「国語が楽しい」、「話し合うことが楽しい」という児童の割合が約75% (5月) から83% (1月) と8%増加することができた。



そして、デジタル教科書についてのアンケートからも95%の児童が楽しく学習を進めることができた。また、81%の児童が、学習がわかりやすくなったという結果が得られた。回答を分析してみると、5月のアンケートで否定的な回答を選んでいた児童や学力に課題のある児童も肯定的回答に変化しているという結果も得ることができた。



上記の結果が得られた要因として、以下の3つのことが考えられる。

①デジタル教科書は、線を引いたり印をつけたりするとすぐにそれが拡大提示される。国語に苦手意識をもっている子ども、デジタル教科書や電子黒板を操作することに意欲をもつ子は多く、電子黒板上で線を引いたり印を付けたりして説明したことについて、クラスの友達が反応を示してくれることで、子どもたちが学習意欲の高まりを感じているようであった。

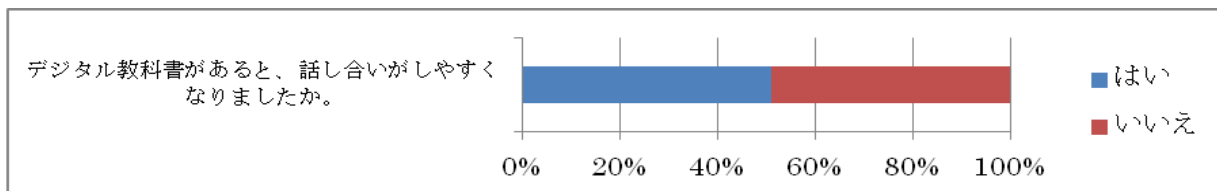
②デジタル教科書は、紙面がそのまま大きな画面で映し出されるので本文を映しながら学習を進めることで、どこを学習しているかが明確になり、子どもたちの意識を集中させて学習を進められた。また、本文だけでなく挿絵や図・写真などを拡大しながら説明に使うこともできる。拡大提示をすることで、余分な情報をなくして、見える情報を制限することもできた。そうすることで、ねらいを持ちながら情報を活用することができた。

③デジタル教科書は、文を読み取る時に子どもたちが発言したことに関する言葉や表現や挿絵を電子黒板で提示しながら、線を引いたり印を付けたりすることができる。そうすることで、意見の根拠となる叙述を確認することができるので叙述に即して読んでいく上で効果的であった。クラス全体で意見を出し合う際、発表する児童が電子黒板を使って伝えたい部分に線を引いたり指で指し示したりしながら、「この部分が」と言って説明することで、他の子どもたちはその箇所に注目しながら聞くことができた。

○課題

・話し合い活動を行う際に、デジタル教科書を有効に使うことができなかった。

『デジタル教科書を活用すると、ペアやグループ内で考えを交流したりするだけでなく、誰かの画面を選んで電子黒板で提示したりすることもできる。その際に、自分の書き込みと友達の書き込みの違いについて検討したり、それを受けて修正したりすることができる。つまり、話し合いの際、自分の書き込みを根拠や理由として話し合いをすることができるであろう。そうすることで、子どもたち一人ひとりの論理的思考や表現力を高め、言語力の育成を図り、楽しく話し合い学び合うことにつなげていくであろう』という仮説のもと授業づくりを行った。授業の中で児童は自分の考えをデジタル教科書へ書き込みを積極的に行ったり、それをもとに話し合いをしたりすることができていた。それは、デジタル教科書が書いたり消したりしやすいツールであるので、子どもたちは積極的に取り組むことができたのであろう。しかし、いくら書いたり消したりすることが容易であっても、全員が個々の思考を書き込みすることはできず、板書を活用した授業との差異を示すことはできなかった。アンケート結果からも 51%の児童は話し合いがしやすくなったと回答をしているが、約半数は変化がなかったと回答している。



今回の検証では指導者用のデジタル教科書のみを活用して取り組んだ。指導者用デジタル教科書だけでは個々の考えを書かせたり共有したりすることができなかった。やはり、児童用のデジタル教科書があるといいと考える。児童用デジタル教科書は児童間と児童教師間で情報が共有できる。児童の書き込みをそのまま大型テレビに映し出すことができれば、話し合いがしやすくなるのではないかと考える。また、デジタルツールであるデジタル教科書とアナログツールであるホワイトボードの組み合わせを検討することで話し合いの質を高めることになるのではないかと考える。

(3) 次年度に向けて

本年度は、指導者用デジタル教科書を紙の教科書とともに活用してきた。デジタル教科書を活用することで、教材の「視覚化」、「焦点化」の手立てを講じやすくなり、すべての子どもが「わかる」「できる」授業につながり、学習意欲が高まることができたと考える。しかし、「共有化」については、課題が残った。今後、児童用デジタル教科書やアナログツールであるホワイトボードやワークシートなどを活用する方法を検討するなど、更なる実践・研究に取り組んでいきたい。